

## 気候変動緩和におけるマイクロ・クレジットの潜在力 Munima Sultana さん (バングラデシュ)

2006年10月13日はバングラデシュにとって歴史的な日となりました。この日、国中がかつてない国際的評価を得たのです。ムハンマド・ユヌス教授と彼の創設した「グラミン銀行」がノーベル平和賞を受賞したことで、わが国は今までとは違う見方をされるようになり、正式に世界からマイクロ・クレジットのパイオニアと認められることになったのです。

これはユヌス教授の革新的な経済概念を成功させようと熱心に取り組んだ何十万人もの貧しい女性たちの功績でもあります。小額融資という単純な方法で貧困を軽減し、読み書きのできない女性をおもな対象として成功を収めてきました。今では「貧者のための銀行」としてすっかり有名になったグラミン銀行ですが、借り手の女性たちは定期的に返済していくという習慣を身につけ、それが国に信望をもたらしています。

貧困や飢えにマイクロ・クレジットが有効であるということが、今では世界のたくさんの国々で証明されています。マイクロ・クレジットは貧困撲滅の包括的な取組みの中で、保健医療、教育、栄養、家庭福祉サービスやコミュニティ開発と組み合わせられて、雨露をしのぎ、生計を立てる手段として幅広く利用されています。

さらに、マイクロ・クレジットには災害や気候変動の影響を緩和する側面がありながら、いまだ手がつけられていません。評論家は、気候変動や災害問題においてジェンダーの視点が欠けているからだと考えています。

貧困は災害にも気候変動にも密接に関連しています。世界中で貧困線以下の生活をしている70%は女性であると推計されています。貧しいバングラデシュでは人口1億4千万人の半数以上が貧困線以下の暮らしをしており、そのほとんどが女性です。貧しい女性は地元の天然資源に大きく依存して生活するしかないのですが、その天然資源は、たび重なる洪水、サイクロン、干ばつ、森林伐採、土壌・河岸侵食、湿地枯渇などの気候変動がもたらす影響に常に脅かされています。

確かにバングラデシュは地理的に災害を受けやすいのですが、特に地球温暖化による海面上昇や大気の変動に脅かされています。気候変動による影響によって昔ながらの生計手段は奪われ、多くの貧しい女性は社会のはずれに追いやられています。農薬の使用、産業廃棄物、営利目的のエビ養殖、不適切な土地使用、また、護岸やダムといったインフラの設計のまずさによってさらに、女性たちは危険にさらされます。

しかしながら、女性が行った対処法が災害軽減やコミュニティの復興において効果的な役割を果たしていたことがわかりました。バングラデシュ史上最悪だった1991年のサイクロンで、女性たちは作業を分類することでその能力を発揮しました。女性はリスクのとらえ方や判断が男性とは異なります。女性はビルを建設する場合、資材の環境的、非耐久的な側面を考えた方法を採用します。また、昔から女性もっている健康や医療処置に関する知識は、災害後にまずコミュニティが立ち直る際の大きな助けになります。

しかし、自然災害はさまざまな形で女性に影響を及ぼします。災害によって労働状況は悪化、家庭やコミュニティでの仕事量の増加、介護負担の激増などのため、女性の経済的不安や仕事量は増加します。復興のためには、短・長期的に女性がさまざまなものやサービスを利用できる状況が必要です。しかし、災害リスク管理へマイクロ・クレジットを利用することは、まだ試験的な段階です。災害リスク軽減へ投資することで、危険に対するもろさを減らし、貧困の悪循環を断ち切るのに有用であると立証されているにもかかわらず、一般にマイクロ・クレジットは災害の影響を緩和する手段として十分に利用されていません。

世界的に権威あるこの賞を受賞された今、ユヌス教授は一国、そして世界の貧困を撲滅することにやりがいを見出しておられることでしょうか。融資を受けた世帯の58%は貧困線を乗り越え、残りの世帯も貧困線の下から着実に上昇しているとグラミン銀行は主張しています。ジェンダーの視点から災害管理や気候変動にマイクロ・クレジットを導入すれば、持続可能な方法で確実に貧困を軽減することができるだろうと多くの人が信じています。



左：グラミン銀行から融資を受けている女性グループが成果の査定を受けている様子  
右：復興作業を細分化して取り組む女性たち。家畜を飼うのもそのひとつ